

今週（12月16日から12月20日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週の無担保コールO/N物は、新しい積み期となったが全体の構図に大きな変化はなく、引き続きオファーサイドは投信業態の余資運用が中心となった一方で、ビッドサイドは邦銀業態を中心に調達ニーズの強い状況となった。そのため、加重平均レートは16日(月)～19日(木)まで0.226～0.227%で安定して推移した。20日(金)は週末となったものの、レートは概ね横這い圏での推移となった。

ターム物は、週前半は12月会合での利上げを織り込む水準での取引が散見されたが、19日(木)に政策金利の現状維持が決定された後は、1M程度の期間でレートが低下する案件も見られた。

日銀当座預金残高は、週初532兆円程度から始まり、国債発行要因や銀行券要因等により18日(水)までに530兆円程度まで減少した。しかし、20日(金)の国債大量償還・利払いを受け、534兆円程度まで再び増加する見込みとなった。

また、18日(水)・19日(木)に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持が決定された。合わせて2023年4月以降実施してきた「金融政策の多角的レビュー」が取りまとめられた。

●レボ市場

今週のO/N GCは、0.24～0.255%のレンジで取引された。16日(月)～18日(水)までは、0.24～0.245%程度での出合いが中心となり、落ち着いて推移する展開となったが、19日(木)は金融政策決定会合の結果を控え、前場はビッドサイドが様子見姿勢を強めたため、レートは0.255%まで上昇した。しかし、結果発表後は再び0.24%程度まで低下し、前日までの水準に戻す展開となり、20日(金)も同水準での出合いが中心となった。

SCは、カレント銘柄近辺やチーペスト周りの銘柄にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は全般的に堅調に推移した。

18日(水)に実施された1Y物入札は、しっかりとした結果となり、結果発表後のセカンダリーマーケットでも堅調に推移した。20日(金)に実施された3M物入札は、平均利回りが強く、テールが流れる結果となったものの、結果発表後のセカンダリーマーケットでは、底堅く推移した。

●CP市場

今週のCP市場は、電気・ガス、機械、卸売業など複数の業態で大型発行が行われた。

市場発行残高は、週を通して26兆円前後で推移した。

発行レートは、銘柄や期間により投資家の運用目線にばらつきがみられた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（％）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・％）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・％)	日銀当座預金残高 （億円）
12/16（月）	39,457.49	1.064	153.88	0.227	0.243	5,321,800
12/17（火）	39,364.68	1.075	154.24	0.227	0.244	5,321,500
12/18（水）	39,081.71	1.060	153.74	0.226	0.245	5,301,100
12/19（木）	38,813.58	1.080	154.85	0.227	0.251	5,302,300
12/20（金）	38,701.90	1.050	157.85	0.227	0.242	5,336,900

来週（12月23日から12月27日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
12/23 (月)					7-9月期の英GDP確報値
12/24 (火)	金融政策決定会合議事要旨(10月30・31日分 8:50)	流動性供給 4,000億円 12/25発行			12月の米CB消費者信頼感指数 11月の米耐久財新規受注 11月の米新築一戸建て販売件数
12/25 (水)	植田日銀総裁 日本経済団体連合会審議委員会で講演 11月の企業向けサービス価格指数(日銀 8:50) 10月の景気動向指数改訂状況(内閣府 14:00)				New York、EURO、London祝日 (Christmas Day)
12/26 (木)	11月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)	2Y 26,000億円 1/6発行			EURO祝日(Christmas Holiday) London祝日(Boxing Day)
12/27 (金)	決定会合における主な意見(12月18・19日分 8:50) 12月の都区部消費者物価指数(CPI 総務省 8:30) 11月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 11月の一般職業紹介状況(有効求人倍率 厚生労働省 8:30) 11月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 11月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50)				

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
12/23 (月) 日銀予想	▲ 2,400	▲ 7,600	▲ 10,000	国債買入 CP買入 国債補完	▲ 300 11,600	11,400	22,700	12,700	TB3M発行▲43,000償還46,000
12/24 (火) 弊社予想	▲ 3,000	1,000	▲ 2,000				0	▲ 2,000	
12/25 (水) 弊社予想	▲ 3,000	1,000	▲ 2,000	全店共通	▲ 8,000		▲ 8,000	▲ 10,000	流動性供給▲4,000
12/26 (木) 弊社予想	▲ 2,000	▲ 2,000	▲ 4,000				0	▲ 4,000	
12/27 (金) 弊社予想	▲ 2,000	▲ 3,000	▲ 5,000				0	▲ 5,000	
週 間 合 計	▲ 12,400	▲ 10,600	▲ 23,000	—	3,300	11,400	14,700	▲ 8,300	

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き0.225～0.228%近辺での出合いが中心となることが予想される。債券レボGC T/N物は、0.15～0.26%のレンジでの推移が予想される。短国市場では、年内の入札予定は終了した。CP市場は、25日(水)にCP等買入オペが2,000億円で実施予定となっている。来月1月を最後にオペ終了が決定されているため、レート水準を含め参加者の動向が注目される。

主要なイベントは、国内では24日(火)に金融政策決定会合議事要旨(10月30・31日分)、27日(金)に決定会合における主な意見(12月18・19日分)、12月の都区部消費者物価指数、11月の完全失業率、有効求人倍率、海外では、23日(月)に7-9月期の英GDP確報値、24日(火)に11月の米新築一戸建て販売件数などの発表が予定されている。

◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入